

有限会社サポートいび（岐阜県池田町）

組織の概要

- 地域全体の農業の活性化を図ることを目的に、平成14年にJAいび川の子会社として設立。
- 主力作物の水稲、麦類（小麦、大麦）、大豆の他、キャベツやネギ、サツマイモ等の野菜、ハトムギ、茶等を栽培。農地中間管理事業等を活用して農地を借入。
- 借地による農作物の作付けの他、農作業受託や農産物の加工・販売、研修生の受け入れ、農機具のレンタル等、多様な事業を展開。
- 労働力は、従業員14名の他、パートタイマーや研修生が約20名。

生産概要

- 【作付面積】水稲：145ha、麦類：132ha、大豆101ha、その他キャベツ等約10ha（R2年）
- 水稲、麦類、大豆は、ほぼ全て2年3作体系で作付け。品種は、小麦は「イワイノダイチ」、大麦は「さやかぜ」、大豆は「フクユタカ」。
- 近年、麦類、大豆の作付面積は増加傾向。
麦類 H30:109ha → R2:132ha（21%増）、大豆 H30:85ha → R2:101ha（19%増）

取組のポイント

<農地の団地化及び営農対策による麦類・大豆の生産性の向上>

- 作付ほ場の団地化は、人・農地プランや農地中間管理事業による農地の集積とも連携を図りつつ、土壌や排水の条件、作業効率等に配慮しながら、認定農業者同士での農地の入れ替えを中心として実施。
- 麦類については、ほ場の団地化と併せ、コンバインの追加導入や耕うん同時畝立播種技術の導入面積の拡大により、一層の作業の効率化を図り、作付面積を拡大。また、生育後期重点施肥の実施面積を拡大し、生産量を確保。
- 大豆については、弾丸暗渠を施工し、排水対策を徹底することにより、単収の向上に繋げる。



<大麦の収穫作業>

<新たな需要の創出と拡大>

- 県、町、JA等関係機関と連携し、実需者ニーズに見合った品種の作付けにより、需要の創出と拡大を図る。

取組成果

<麦類・大豆生産の高位安定化の実現>

■ 作付面積の拡大

- ・麦類：132ha（R2）⇒ 133ha（R4）（1%増）
⇒ 140ha（R6目標）

■ 団地化率の向上

- ・大豆：5.8%（R2）⇒ 14.9%（R4）（9.1ポイント増）
⇒ 11.9%（R5目標）

■ 単収の増加

- ・大豆：68.0kg/10a（R2）⇒ 74.3kg/10a（R4）（9.3%増） ⇒ 120kg/10a（R5目標）
[池田町平均単収(H26～R2年度7中5平均):110.8kg/10a]

